

- 2 さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、
- 3 イエスに言わせた、『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか。』
- 4 イエスは答えて言われた、「行つて、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。
- 5 盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しはいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。
- 6 わたしにつまりかかない者は、さいわいである。』
- 7 彼らが帰つてしまうと、イエスはヨハネのことを群衆に語りはじめられた、「あなたがたは、何を見に荒野に出きたのか。風に揺らぐ草であるか。
- 8 では、何を見に出きたのか。柔らかな衣着物をまとつた人か。柔らかな衣着物をまとつた人々なら、王の家に入る。
- 9 では、なんのために出てきたのか。預言者を見るためか。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である。
- 10 『見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの前に、道を整えさせるであらう』と書いてあるのは、この人のことである。
- 11 あなたがたによく言つておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。しかし、天国で最も小さい者も、彼よりは大きい。
- 12 バプテスマのヨハネの時から今に至るまで、天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている。
- 13 すべての預言者と律法とが預言したのは、ヨハネの時までである。
- 14 そして、もしあなたがたが受けいれることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである。
- 15 耳のある者は聞くがよい。
- 16 今の時代を何に比べようか。それは子供たちが広場にすわつて、ほかの子供たちに呼びかけ、
- 17 『わたしたちが笛を吹いたのに、あなたがたは踊つてくれなかつた。あなたがたは踊つてくれなかつた。』
- 18 なぜなら、ヨハネがきて、食べることも、飲むこともしない、それは悪霊につかれているのだ、と言ひ、
- 19 また人の子がきて、食べたり飲んだりしていると、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と言う。しかし、知恵の正しいことは、その働きが証明する。』

# 12

20それからイエスは、数々の力あるわざがなされたのに、悔い改めることをしなかつた町々を、責めはじめられた。  
 21「わざわいだ、コラジンよ。わざわいだ、ベツサイイダよ。おまえたちのうちでなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶつて、悔い改めたであろう。22しかし、おまえたちに言っておく。さばきの日には、ツロとシドンの方がおまえたちよりも、耐えやすいであろう。  
 23ああ、カペナウムよ、おまえは天にまで上げられようともいふのか。黄泉にまで落されるであろう。おまえの中でなされた力あるわざが、もしソドムでなされたなら、その町は今日までも残っていたであろう。24しかし、あなたがたに言う。さばきの日には、ソドムの地の方がおまえよりは耐えやすいであろう」。

25そのときイエスは声をあげて言われた、「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。  
 26父よ、これはまことにみこころにかなつた事でした。27すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。  
 28すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。  
 29わたしは柔和で心のへりくだつた者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。  
 30わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

1 そのころ、ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であつたので、穂を摘んで食べはじめた。  
 2 パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った、「ごらんなさい、あなたの弟子たちが、安息日にしてはならないことをしています」。  
 3 そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちが飢えたとき、ダビデが何をしたらか読んだことがないのか。  
 4 すなわち、神の家にはいつて、祭司たちのほか、自分も供の者たちも食べてはならぬ供えのパンを食べたのである。  
 5 また、安息日に宮仕えをしている祭司たちは安息日を破つても罪にはならないことを、律法で読んだことがないのか。  
 6 あなたがたに言っておく。宮よりも大いなる者がここにいます。  
 7 『わたしが好むのは、あわれみであつて、いけにえではない』とはどういう意味か知つていたら、あなたがたは罪のない者とがめなかつたであろう。  
 8 人の子は安息日の主である」。

9 イエスはそこを去つて、彼らの会堂にはいられた。10すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思つて、「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねた。  
 11 イエスは彼らに言われた、「あなたがたのうちに、一匹の羊を持つている人があつたとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないうらうか。  
 12 人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。  
 13 としてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなつた。  
 14 パリサイ人たちは出て行つて、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。  
 15 イエスはこれを知つて、そこを去つて行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、16 として自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。  
 17 これは預言者イザヤの言つた言葉が、成就するためである、  
 18 「見よ、わたしが選んだ僕、わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。  
 19 彼は争わず、叫ばず、またその声を大路で聞く者はない。  
 20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、いためられた葦を折ることがなく、煙つている燈心を消すこともない。  
 21 異邦人は彼の名に望みを置くであろう」。

22そのとき、人々が悪霊につかれた盲人のおしを連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。

23すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。

24しかし、パリサイ人たちは、これを聞いて言った、「この人が悪霊を追い出しているのは、まったく悪霊のからべルゼブルによるのだ」。

25イエスは彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで分れ争う町や家は立ち行かない。

26もしサタンがサタンを追い出すならば、それは内わで分れ争うことになる。それでは、その国はどうして立ち行けよう。

27もしわたしがべルゼブルによつて悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによつて追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。

28しかし、わたしが神の霊によつて悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである。

29まただれでも、まず強い人を縛りあげなければ、どうして、その人の家に押し入って家財を奪い取ることができようか。縛ってから、はじめてその家を掠奪することができる。

30わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。

31だから、あなたがたに言っておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。

32また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。

33木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければ、その実も悪いとせよ。木はその実でわかるからである。

34まむしの子らよ。あなたがたは悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができようか。おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。

35善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。

36あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。

37あなたは、自分の言葉によつて正しいとされ、また自分の言葉によつて罪ありとされるからである」。

38そのとき、律法学者、パリサイ人のうちのある人々がイエスにむかつて言った、「先生、わたしたちはあなたがたから、しるしを見せていただきとうございます」。

39すると、彼らに答えて言われた、「邪悪で不義な時代は、しるしを求めろ。しかし、預言者ヨナのしるしのほかに、なんのしるしも与えられないであろう。

40すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるであろう。

41二ネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立つて、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、二ネベの人々はヨナの宣教によつて悔い改めたからである。

しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。

42南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立つて、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果から、はるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいる。

43汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわるが、見つからない。

44そこで、出てきた元の家に帰ろうと言つて帰つて見ると、その家はいいて、そうじがしてある上、飾りつけがしてあった。

45そこでまた出て行つて、自分以上に悪い他の七つの霊と一緒に引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人ののちの状態は初めよりもっと悪くなるのである。よこしまな今の時代も、このようになるであろう」。

46イエスがまだ群衆に話しておられるとき、その母と兄弟たちとが、イエスに話そうと思つて外に立つていた。

47それで、ある人がイエスに言った、「ごらん下さい。あなたの母上と兄弟がたが、あなたに話そうと思つて、外に立つておられます」。

48イエスは知らせてくれた者に答えて言われた、「わたしの母とは、だれのことか。わたしの兄弟とは、だれのことか」。

49そして、弟子たちの方に手をさし伸べて言われた、「ごらん下さい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。

50天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

# 13

1 その日、イエスは家を出て、海べにすわつておられた。  
2 ところが、大ぜいの群衆がみもとに集まつたので、イエスは舟に乗つてすわれ、群衆はみな岸に立つていた。  
3 イエスは譬で多くの事を語り、こう言われた、「見よ、種まきが種をまきに出て行つた。  
4 まいているうちに、道ばたに落ちた種があつた。すると、鳥がきて食べてしまつた。  
5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、  
6 日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまつた。  
7 ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまつた。  
8 ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなつた。  
9 耳のある者は聞くがよい」。

10 それから、弟子たちがイエスに近寄つてきて言つた、「なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか」。  
11 そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。  
12 おおよそ、持つてゐる人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持つてゐない人は、持つてゐるものまでも取り上げられるであらう。  
13 だから、彼らには譬で語るのである。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからである。

# 13

14 こうしてイザヤの言つた預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。  
見るには見るが、決して認めない。  
15 この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。  
それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである』。  
16 しかし、あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである。  
17 あなたがたによく言つておく。多くの預言者や義人は、あなたがたの見てゐることを見ようと熱心に願つたが、見ることができず、またあなたがたの聞いていることを聞くことができなかったのである。

18 そこで、種まきの譬を聞きなさい。  
19 だれでも御国の言を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪いとつて行く。道ばたにまかれたものというのは、そういう人のことである。  
20 石地にまかれたものというのは、御言を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことである。  
21 その中に根がないので、しばらく続くだけであつて、御言のために困難や迫害が起つてくると、すぐつまずいてしまう。  
22 また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。  
23 また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであつて、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである」。

24 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。  
 25 人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。  
 26 芽がはえて実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。  
 27 僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。』  
 28 主人は言った、『それは敵のしわざだ』。すると僕たちが言った、『では行つて、それを抜き集めましょうか。』  
 29 彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。  
 30 収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう』。  
 31 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとつて畑にまくと、  
 32 それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる」。  
 33 またほかの譬を彼らに語られた、「天国は、パン種のようなものである。女がそれを取つて三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。  
 34 イエスはこれらのことをすべて、譬で群衆に語られた。譬によらないでは何事も彼らに語られなかった。  
 35 これは預言者によつて言われたことが、成就するためである、「わたしは口を開いて譬を語り、世の初めから隠されていることを語り出そう」。

36 それからイエスは、群衆をあとに残して家にはいられた。すると弟子たちは、みもとにきて言った、「畑の毒麦の譬を説明してください」。  
 37 イエスは答えて言われた、「良い種をまく者は、人の子である。  
 38 畑は世界である。良い種と言うのは御国の子たちで、毒麦は悪い者の子たちである。  
 39 それをまいた敵は悪魔である。収穫とは世の終りのことで、刈る者は御使たちである。  
 40 だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終りにもそのとおりになるであろう。  
 41 人の子はその使たちをつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国からとり集めて、  
 42 炉の火に投げ入れさせるであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。  
 43 そのとき、義人たちは彼らの父の御国で、太陽のように輝きわたるであろう。耳のある者は聞くがよい。  
 44 天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれをみつけると隠しておき、喜びのあまり、行つて持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。  
 45 また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。  
 46 高価な真珠一個を見いだすと、行つて持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。  
 47 また天国は、海におろして、あらゆる種類の魚を囲みいれる網のようなものである。  
 48 それがいっぱいになると岸に引き上げ、そしてすわつて、良いのを器に入れ、悪いのを外へ捨てるのである。  
 49 世の終りにも、そのとおりになるであろう。すなわち、御使たちがきて、義人のうちから悪人をえり分け、  
 50 そして炉の火に投げこむであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。  
 51 あなたがたは、これらのことが皆わかったか」。彼らは「わかりました」と答えた。  
 52 そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである」。  
 53 イエスはこれらの譬を語り終えてから、そこを立ち去られた。  
 54 そして郷里に行き、会堂で人々を教えられたところ、彼らは驚いて言った、「この人は、この知恵とこれらの力あるわざとを、どこで習ってきたのか」。  
 55 この人は大工の子ではないか。母はマリヤといい、兄弟たちは、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。  
 56 またその姉妹たちもみな、わたしたちと一緒にいるではないか。こんな数々のことを、いったい、どこで習ってきたのか」。  
 57 こうして人々はイエスにつまずいた。しかし、イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里や自分の家以外では、どこでも敬われないことはない」。  
 58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかった。

- 1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、
- 2 家来に言った、「あれはバプテスマのヨハネだ。死人の中からよみがえったのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」。
- 3 というのは、ヘロデは先に、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、獄に入れていた。
- 4 すなわち、ヨハネはヘロデに、「その女をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。
- 5 そこでヘロデはヨハネを殺そうと思ったが、群衆を恐れた。彼らがヨハネを預言者と認めていたからである。
- 6 さてヘロデの誕生日の祝に、ヘロデヤの娘がその席上で舞をまい、ヘロデを喜ばせたので、
- 7 彼女の願うものは、なんでも与えようと、彼は誓って約束までした。
- 8 すると彼女は母にそのかされて、「バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、ここに持ってきていただきとうございます」と言った。
- 9 王は困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、それを与えるように命じ、
- 10 人をつかわして、獄中でヨハネの首を切らせた。
- 11 その首は盆に載せて運ばれ、少女にわたされ、少女はそれを母のところを持って行った。
- 12 それから、ヨハネの弟子たちがきて、死体を引き取って葬った。そして、イエスのところに行つて報告した。

13 イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそれと聞いて、町々から徒歩であとを追ってきた。14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をこらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。

15 夕方になったので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。

16 するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。

17 弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。

18 イエスは言われた、「それをここに持つてきなさい」。

19 そして群衆に命じて、草の上にならさせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。

20 みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。

21 食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。

22 それからすぐ、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。

14

23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。

24 ところが舟は、もうすでに陸から数丁も離れており、逆風が吹いていたために、波に悩まされていた。

25 イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。

26 弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。

27 しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、「しつかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われた。

28 するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしかかでは、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください」。

29 イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。

30 しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、「主よ、お助けください」と言った。

31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。

32 ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。

33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。

34 それから、彼らは海を渡ってゲネサレの地に着いた。

35 するとその土地の人々はイエスと知って、その附近全体に人をつかわし、イエスのところに病人をみな連れてこさせた。

36 そして彼らにイエスの上着のふさにでも、さわらせてやっていたきたいとお願いした。そしてさわった者は皆いやされた。

1 ときに、パリサイ人と律法学者たちとが、エルサレムからイエスのもとにきて言った、  
 2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言伝えを破るのですか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。  
 3 イエスは答えて言われた、「なぜ、あなたがたも自分の言伝えによつて、神のいましめを破っているのか。  
 4 神は言われた、『父と母とを敬え』、また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と。  
 5 それなのに、あなたがたは『だれでも父または母にむかつて、あなたにさしあげるはずのこのものは供え物です、と言えは、  
 6 父または母を敬わなくてもよろしい』と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによつて、神の言を無にしている。  
 7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、  
 8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。  
 9 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』」。

10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。  
 11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえつて、口から出るものが人を汚すのである」。  
 12 そのとき、弟子たちが近寄つてきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまずいたことを、ご存じですか」。  
 13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。  
 14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。  
 15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。  
 16 イエスは言われた、「あなたがたも、まだわからないのか。  
 17 口にはいつてくるものは、みな腹の中にはいり、そして、外に出て行くことを知らないのか。  
 18 しかし、口から出て行くものは、心の中から出てくるのである。それが人を汚すのである。  
 19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのである、  
 20 これらのものが人を汚すのである。しかし、洗わない手で食事することは、人を汚すのではない」。

21さて、イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方へ行かれた。

22すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。

23しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきていますから」。

24するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされてはいない」。

25しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。

26イエスは答えて言われた、「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。

27すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。

28そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。

15

29イエスはそこを去って、ガリラヤの海べに行き、それから山に登ってそこにすわられた。

30すると大ぜいの群衆が、足なえ、不具者、盲人、おし、そのほか多くの人々を連れてきて、イエスの足もとに置いたので、彼らをおいやしになった。

31群衆は、おしが物を言い、不具者が直り、足なえが歩き、盲人が見えるようになったのを見て驚き、そしてイスラエルの神をほめたたえた。

32イエスは弟子たちを呼び寄せと言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。しかし、彼らを空腹のまま帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう」。

33弟子たちは言った、「荒野の中で、こんなに大ぜいの群衆にじゅうぶん食べさせるほどたくさんパンを、どこで手に入れましょうか」。

34イエスは弟子たちに「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります。また小さい魚が少しあります」と答えた。

35そこでイエスは群衆に、地にすわるようにと命じ、六七つのパンと魚とを取り、感謝してこれをさき、弟子たちにならされた、弟子たちはこれを群衆にわけた。

37一同の者は食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七つのかごにいっぱいになった。

38食べた者は、女と子供とを除いて四千人であった。

39そこでイエスは群衆を解散させ、舟に乗ってマガダンの地方へ行かれた。

1 パリサイ人とサドカイ人とが近寄ってきて、イエスを試み、天からのしるしを見せてもらいたいと言った。  
2 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは夕方になると、『空がまっかだから、晴だ』と言い、  
3 また明け方には『空が曇ってまっかだから、きょうは荒れだ』と言う。あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか。  
4 邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、ヨナのしるしのほかに、なんのしるしも与えられないであろう」。そして、イエスは彼らをあとに残して立ち去られた。

5 弟子たちは向こう岸に行ったが、パンを持って来るのを忘れていた。  
6 そこでイエスは言われた、「パリサイ人とサドカイ人とのパン種を、よくよく警戒せよ」。  
7 弟子たちは、これは自分たちがパンを持ってこなかったためであろうと言って、互に論じ合った。  
8 イエスはそれと知って言われた、「信仰の薄い者たちよ、なぜパンがないからだと互に論じ合っているのか。  
9 まだわからないのか。覚えていないのか。五つのパンを五千人に分けたとき、幾かご拾ったか。  
10 また、七つのパンを四千人に分けたとき、幾かご拾ったか。  
11 わたしと言ったのは、パンについてではないことを、どうして悟らないのか。ただ、パリサイ人とサドカイ人とのパン種を警戒しなさい」。  
12 そのとき彼らは、イエスが警戒せよと言われたのは、パン種のことではなく、パリサイ人とサドカイ人との教のことであると悟った。